

PAT-NO: JP409084468A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09084468 A

TITLE: RECEPTACLE FOR FLOWERPOT

PUBN-DATE: March 31, 1997

INVENTOR-INFORMATION:

NAME
MORII, YOSHIO

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
KK KANEKO SEISAKUSHO	N/A

APPL-NO: JP07267636

APPL-DATE: September 21, 1995

INT-CL (IPC): A01G009/04

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a new effective and convenient receptacle for a flowerpot when not at home for several days.

SOLUTION: This pan for a flowerpot comprises a receptacle body 8 capable of storing water in an amount for several days and plural bottom raising pedestals 14, capable of being placed on the top surface of the bottom wall in the receptacle body and having plural stepped parts in the form of stairs.

COPYRIGHT: (C)1997,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-84468

(43)公開日 平成9年(1997)3月31日

(51)Int.Cl.^o

A 01 G 9/04

識別記号

庁内整理番号

F I

A 01 G 9/04

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数2 FD (全3頁)

(21)出願番号

特願平7-267636

(22)出願日

平成7年(1995)9月21日

(71)出願人 000142399

株式会社金子製作所

東京都荒川区東日暮里1丁目37番8号

(72)発明者 森井 由雄

埼玉県三郷市戸ヶ崎4-204

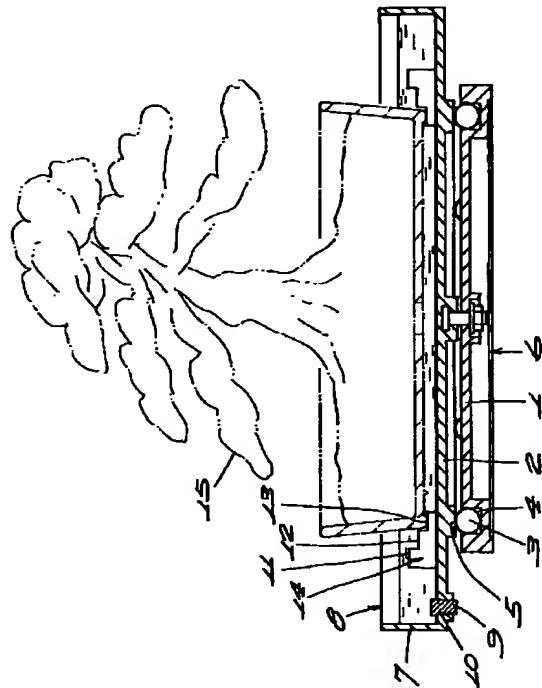
(74)代理人 弁理士 杉山 泰三

(54)【発明の名称】植木鉢用受皿

(57)【要約】

【課題】失敗を回避する用に供して有効且つ便利な新規の植木鉢用受皿を提供することを目的とする。

【解決手段】数日分の水を貯水できる受皿本体と、この受皿本体の底壁の上面に任意に置くことのできる、複数の水没段差を階段状に有する嵩上げ用台とから構成されたことを特徴とするものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 数日分の水を貯水できる受皿本体と、この受皿本体の底壁の上面に任意に置くことのできる、複数の水没段差を階段状に有する嵩上げ用台とから構成されたことを特徴とする植木鉢用受皿。

【請求項2】 受皿本体の下面にターンテーブル部をもつことを特徴とする請求項1記載の植木鉢用受皿。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、数日間に亘って留守にする等のときに便利な植木鉢用受皿に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般に、植木鉢を所有してこれを自分で管理している人は、数日間に亘って留守にする場合植木の水を涸らしてしまうことのないようにいろいろ工夫しているが、しばしば植木を枯らす失敗をしてしまうことがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、上記のような失敗を回避する用に供して有効且つ便利な新規の植木鉢用受皿を提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するため本発明に係る植木鉢用受皿は、数日分の水を貯水できる受皿本体と、この受皿本体の底壁の上面に任意に置くことのできる、複数の水没段差を階段状に有する嵩上げ用台とから構成されたことを特徴とするものであり、そして、受皿本体の下面にターンテーブル部をもつことを特徴とするものである。

【0005】

【実施例】 図に示す実施例は、固定下盤1と回転上盤2と中心軸3と多数個のポール3とポール転動溝4とポール受け部5から成るターンテーブル6を構成し、このターンテーブル6の回転上盤2の外周縁に立上壁7を周設して当該回転上盤2を貯水できる受皿本体8とし、この受皿本体8の底部に栓9付きの水抜き孔10設けると共にこれとは別個に、上中下の段差11、12、13を階段状に有する複数個の嵩上げ用台14を構成し、これ等嵩上げ用台14を上記受皿本体8の底壁の上に適宜に置き且つこれ等嵩上げ用台14の段差の一つを任意に選択してその上に植木鉢15の底縁を載架することによって当該植木鉢15における鉢底部の浸漬量を調節するようにしたものである。

【0006】 尚、上記嵩上げ用台14の各段差の高さは、1日分の水の量となるようにすると、使う上において区切りがよく使い易くなつて好都合であり、上記実施例もそのようにしてある。

【0007】 本発明は、受皿本体の下面にターンテーブルを設けない構成で実施することもできる。

【0008】

【作用】 本発明に係る植木鉢用受皿の用法を上記の実施例に依拠して説明する。先ず、受皿本体8付きターンテーブル6を適宜場所に置き、受皿本体8の底壁の上に予め嵩上げ用台14のいくつかを植木鉢15の底の外周の形の配置として置くと共にこれ等嵩上げ用台14の段差の一つを任意に選択してその上に植木鉢15の底縁を載せ置き(図2参照)、然るのち受皿本体8の中に数日分の水を収容し、よってたとえば留守にしている数日間に亘って植木鉢15に水をやらなくともよいようになる。このような用法の場合、受皿本体8の中に残り水があるときには上記留守の日数に見合う量の水を足し容れたり、また、帰宅後には根ぐされ等を防ぐために栓9を抜いて排水したり、また、数日分の水を容れて外出したのに1日だけの留守になってしまった等のときには、高い方の段差に移し載せて1日分もしくは水切りの状態となり、等して使用者が自由な使い勝手で使用できるものであって、使用者が水を多く必要とする植木の特性、少ない水でよい植木の特性を経験的に知って受皿本体の中に容れる水の量の調節や段差の選び方をなすことによつて水の過多による弊害を防ぐような工夫をなして使用できるものである。

【0009】 尚、上記ターンテーブル6は、枝の剪定等作業の場合や植木を美しく見える方向に向ける等の場合に好都合である。

【0010】

【発明の効果】 本発明に係る植木鉢用受皿は、上記したような用法を植木の特性に合せて使用者がなすことによつて、数日間の留守中に起してしまい勝ちな水の涸れ、植木の枯れ等の失敗を回避でき、また嵩上げ用台における段階状の段差を経験的に上手に利用することによつて水の過多による弊害を充分に防ぐことができ、更に、枝の剪定等作業の場合や植木を美しく見える方向に向けたい等の場合にはターンテーブル部の回転を任意に使ってこれ等をなすことができる等の実用的効果を奏するものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の一実施例を示す斜視図である。

【図2】 同じく断面図である。

40 【符号の説明】

- 1 固定下盤
- 2 回転上盤
- 3 ポール
- 4 ポール転動溝
- 5 ポール受け部
- 6 ターンテーブル
- 7 立上壁
- 8 受皿本体
- 9 栓

50 10 水抜き孔

(3)

特開平9-84468

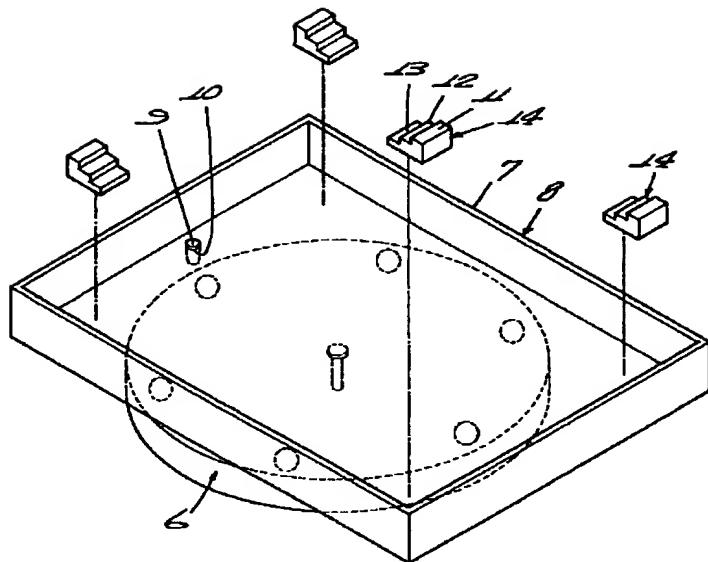
3

4

11 12 13 段差
14 嵩上げ用台

15 植木鉢

【図1】



【図2】

